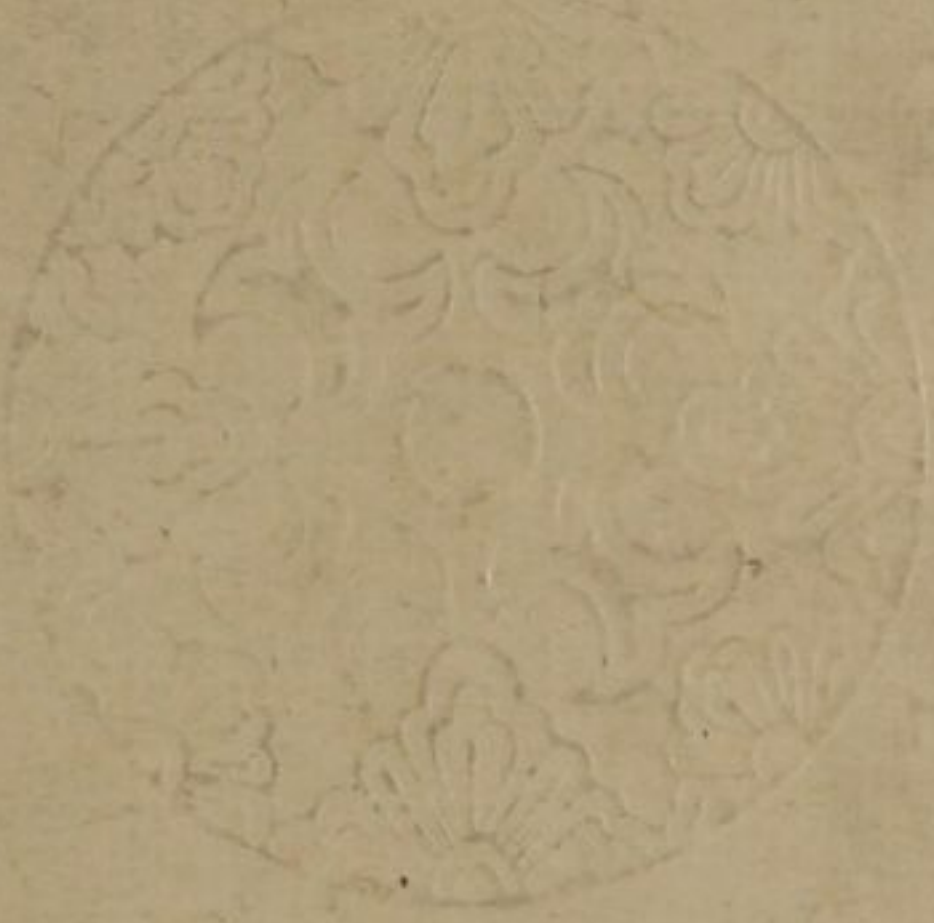


冠注大和物語

中



風ふらふらて
萩のまふた風のま
ふらふらてあつあひ
ふらふらてあつあひ
ふらふらてあつあひ
ふらふらてあつあひ

元良親王御集

萩のまふた風のま
ふらふらてあつあひ

ふらふらてあつあひ

ふらふらてあつあひ

新勅恋四

あつあひてあつあひ

あつあひてあつあひ

のあつあひ

あつあひてあつあひ

あつあひてあつあひ

あつあひてあつあひ

あつあひてあつあひ



あはれなるよ月の光をたのむるは

よき娘の心なる

古来

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

古来

よき娘の心なる

あはれなるよ月の光をたのむるは
よき娘の心なる

あはれなるよ月の光をたのむるは

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

よき娘の心なる

あはれなるよ月の光をたのむるは
よき娘の心なる

あはれなるよ月の光をたのむるは
よき娘の心なる

あはれなるよ月の光をたのむるは
よき娘の心なる

まづあつたかゝるに
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

かゝるに

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

貞信公

しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり
しるすべしなりけり
しるすべしなりけり

しるすべしなりけり

系圖之貴子保明太子
御息所後重明親王北方

兵備の事

撫子吳本小ま露の如

の事いふ事いふ事い

しるすべしなりけり

新後中不師尹ときり

しるすべしなりけり

しるすべしなりけり

しるすべしなりけり

後撰雜二

サロム六
ワの事トモカハミなるナカの事ハナカ
をハナカの事トモカハミなるナカの事ハナカ

お那な—女人にょ—

大おほなるなるの事ことの神かみは月つき

の事ことの事ことの事ことの事こと

大おほなるなるの事ことの事ことの事ことの事こと
大夫

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

後撰雜

系圖土源公平宮内女
輔大藏卿因紀三男
あゆみのゑ
於茲抄云縣井戸一条
北東洞院西角
おるや
身みのこのあのんのん
たねあきら
歌仙傳云源信明天曆
元年備後守公忠男云

ワレの事こと

三途川さんずとての女をの死に

かゝるとてはるる時は

てあいにはるる男もはな

十王經云葬頭河曲於

初江邊官廡相連兼所

渡前大河云尋初開男

負其女人牛頭鍊棒挾

二肩追渡疾瀬云

こゝに傳はれし古き

といふ

わろ

系圖云度正左兵衛天曆
元三年云兼輔の四男
あゆみのゑのつと
あつとつとつとのお
るあつとつとつとつと

おふたの事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

の事ことの事ことの事ことの事こと

よめおちる〜とく
ちんちんおちる彼方とそ
つてよめくゝ西のむね
つてはちんちん〜
院田中
こころをほろめぬ院田中
ちんちん〜

院田中
ちんちんおちる彼方とそ
つてよめくゝ西のむね
つてはちんちん〜
院田中
こころをほろめぬ院田中
ちんちん〜

おちるよめ

無情耐あつたき活をあれ〜後院田中のおちるよめ

人おちるれ〜ちんちんおちるよめ

ちんちんおちるれ〜院田中のおちるよめ

院田中

おちるよめ〜院田中のおちるよめ

あおちるれ〜院田中のおちるよめ

おちるよめ〜院田中のおちるよめ

院田中

院田中のおちるよめ

院田中のおちるよめ

おちるよめ〜院田中のおちるよめ

院田中

おちるよめ〜院田中のおちるよめ

おちるよめ〜院田中のおちるよめ

院田中

院田中のおちるよめ

院田中のおちるよめ

院田中のおちるよめ

院田中のおちるよめ

ちのせきひふ
系圖之師輔兼平元
関五補藏人頭き
小武のめれと
天房内乳母と

あつた
ちのせきひふ
泉慶のねわい
源宗子女と

ちのせきひふ
孩古といふまふの
とあつたふより
まふこふとてハ
まふ
まふのまふ
あふ真樹とまふ
いふ信の集え系統
のねふいふとて

神とていふか
あつたのねわい
ちのせきひふ
小武のめれと
秋のねわい
まふのねわい
あつたのねわい

あつたのねわい
ちのせきひふ
小武のめれと
秋のねわい
まふのねわい
あつたのねわい

あつたのねわい
ちのせきひふ
小武のめれと
秋のねわい
まふのねわい
あつたのねわい

あつたのねわい
ちのせきひふ
小武のめれと
秋のねわい
まふのねわい
あつたのねわい

口ついでにわらう
くはらうてあまふ
こいひおほまをり
かろくしてさこい
ゆつと小なく信
を系國小源忠男
陸奥守さか後撰
以下作志云く揃
信明とさねきと
るあされくまふ
ふあふあろいあ
くつてのこいふ
大入のせりうの
死天山
十王経云闍魔王因
塊死天山南門亡人重
過兩莖相通破膝割
層漏髓死天重死故
言死天云、

おちすた
公卿補任云忠平公兼
平六年関白大政大臣
後一位云、仲平公兼平
三年右大臣正三位云、
大鏡卷三云真信云より
八代見ふやれせしと
女中まゝ大入女中ら
ておくれあつて

せらふにむらむらに
けけけけけけけけけ
信明集のうらむらむらむらむら
あやむらむらむらむら
ごうらむらむらむらむら
後撰雜三むらむらむらむらむら
家あやむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら

男おちすた
家あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら
家あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら
真信公あやむらむらむらむらむら
仲平あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら
あやむらむらむらむらむら

世にまふくはくこの
白女(うしろ)の格(たて)
後撰(ごせんに)三(さん)つ(つ)の
白川(しろがわ)と(と)し(し)る(る)は(は)
作(つく)ら(ら)る(る)ふ(ふ)た(た)武(ぶ)
興(おこ)れ(れ)た(た)の(の)ま(ま)し(し)
わ(わ)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ま(ま)し(し)
か(か)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ひ(ひ)り(り)
は(は)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)き(き)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て

いの姫
さ(さ)ら(ら)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
白河(しろがわ)の(の)い(い)づ(づ)み(み)の(の)
お(お)ふ(ふ)く(く)の(の)れ(れ)き(き)
は(は)無(む)能(ね)き(き)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)
の(の)補(おぎな)ふ(ふ)く(く)は(は)

ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)う(う)ハ(ハ)唯(ただ)を(を)い(い)し(し)に(に)
お(お)あ(あ)一(いち)ト(ト)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)
ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)の(の)あ(あ)ら(ら)ま(ま)し(し)

世(よ)に(に)ま(ま)ふ(ふ)く(く)は(は)く(く)の(の)
白(しろ)女(にょ)の(の)う(う)しろ(しろ)の(の)格(たて)
後(ご)撰(せんに)三(さん)つ(つ)の(の)
白(しろ)川(がわ)と(と)し(し)る(る)は(は)
作(つく)ら(ら)る(る)ふ(ふ)た(た)武(ぶ)
興(おこ)れ(れ)た(た)の(の)ま(ま)し(し)
わ(わ)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ま(ま)し(し)
か(か)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ひ(ひ)り(り)
は(は)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)き(き)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て

世(よ)に(に)ま(ま)ふ(ふ)く(く)は(は)く(く)の(の)
白(しろ)女(にょ)の(の)う(う)しろ(しろ)の(の)格(たて)
後(ご)撰(せんに)三(さん)つ(つ)の(の)
白(しろ)川(がわ)と(と)し(し)る(る)は(は)
作(つく)ら(ら)る(る)ふ(ふ)た(た)武(ぶ)
興(おこ)れ(れ)た(た)の(の)ま(ま)し(し)
わ(わ)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ま(ま)し(し)
か(か)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ひ(ひ)り(り)
は(は)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)き(き)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て

世(よ)に(に)ま(ま)ふ(ふ)く(く)は(は)く(く)の(の)
白(しろ)女(にょ)の(の)う(う)しろ(しろ)の(の)格(たて)
後(ご)撰(せんに)三(さん)つ(つ)の(の)
白(しろ)川(がわ)と(と)し(し)る(る)は(は)
作(つく)ら(ら)る(る)ふ(ふ)た(た)武(ぶ)
興(おこ)れ(れ)た(た)の(の)ま(ま)し(し)
わ(わ)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ま(ま)し(し)
か(か)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ひ(ひ)り(り)
は(は)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)き(き)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て

世(よ)に(に)ま(ま)ふ(ふ)く(く)は(は)く(く)の(の)
白(しろ)女(にょ)の(の)う(う)しろ(しろ)の(の)格(たて)
後(ご)撰(せんに)三(さん)つ(つ)の(の)
白(しろ)川(がわ)と(と)し(し)る(る)は(は)
作(つく)ら(ら)る(る)ふ(ふ)た(た)武(ぶ)
興(おこ)れ(れ)た(た)の(の)ま(ま)し(し)
わ(わ)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ま(ま)し(し)
か(か)ら(ら)い(い)ふ(ふ)ひ(ひ)り(り)
は(は)れ(れ)は(は)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て
よ(よ)き(き)ま(ま)し(し)と(と)い(い)て

ていふ處で上下の菫
のこころあまふふ
あしをうきうき
はらうらうらのま市
川氏の子あまふふ
まろき齒うきふき
くろとまやうきふ
白川
肥後国阿曾より流
出くはくは筑後風土
記云肥後国阿曾縣坤
二十余里有禿山頂有
泉沼云々時々水滿後南
溢流入白川云々
あこめ

はつたの
俗に物あまふふ
むきあまふふ
あこめ

うきあまふふのまふまふあはれ
ふたあまふふのあまふふあはれ
まふふは

家集

麻の糸をいひくはれあまふふ
あまふふのあまふふあはれ
けむのまふふのあまふふあはれ
のまふふのあまふふあはれ
はまふふのあまふふあはれ

同

あまふふのあまふふあはれ
あまふふのあまふふあはれ

同
秋のまふふのあまふふあはれ
あまふふのあまふふあはれ

底其所

あまふふのあまふふあはれ

あまふふのあまふふあはれ

新後於恋三監令如

檜垣家集

あまふふのあまふふあはれ
あまふふのあまふふあはれ

あまふふのあまふふあはれ

あまふふのあまふふあはれ

同

あまふふのあまふふあはれ
あまふふのあまふふあはれ

ハナハ

先きの山可お月しいのるらるる
延喜
のちのあそびを張るんん公建二十ナシ

まらたあまのまのうらうらひ次の
このきしるいもたのあくらあのか
とたしよみんあま

おあーいこのあけ新伝成るーと
月れいとれーらああああああ
と月とらとらとらとらとらとらとら
よーこのうまうれとおろとらとら
は階のあふたふとらとらとらとら

躬恒
古今目録云延喜七年
正月十三日任丹波權大目
御厨司所同一二年正月
十三日任和泉權掾之
カニヤニヤ
和名抄云劉熙秋名云
弦月月之半名也其形
一旁曲一旁直若張弓
弦也弦月 和名由美八利
有上弦下弦

るる

大鏡
てふ月とめいんんんんんんん
山なとけーとれいんあくら

福ふあうらうらうらうらうら
ーああいのあうらうらうらうら

おあ延喜まの月のおもるまおま
みああいのあうらうらうらうら

のせあうらうらうらうらうら
くらうらうらうらうらうらうら

大つちきハ男也を
羽の衣くこつちきハ
女の衣くこつちきハ
この小あうらうら
の後く白子ハ大掛あふ
白きふたうらうら
小肩とらうらうら

阿る奉小本八主上
末八公忠亦て廿二教と
せり

こねらちまきしるのさむかへりて女の心
の清きまればちかき心へてつとめんた
まを忠とて^{ちうく}活^{くわく}せりて勢強し奉社ハ豊城
ゆたかれば心へてつとめりてつとめりて
そよこしむる心へてつとめりてつとめりて
や一の心へてつとめりてつとめりてつとめりて
家集
只ちかき心へてつとめりてつとめりてつとめりて
越き活山庄
あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
おのれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
たまへりてつとめりて

先帝は治世のつとめりてつとめりてつとめりて

きしれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
を人おもひてつとめりてつとめりてつとめりて

たのみの心へてつとめりてつとめりてつとめりて
新勅恋三
あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
つとめりて

あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて
あはれれば心へてつとめりてつとめりてつとめりて

字まふ一内うんぬの
りつはたのちん

物
古佐日記二月七日の奉

云ねんもまもるも神の
汲川さしこみんすあ

かくいしおのいしお
深きふしつちかた

いしつちかた
さしたるやうのちかた

いしつちかた
かたつちかた

くくの助
古今目録兼輔延

喜三年正月任内藏助
云

古志記
よんねん

よんねん
のいしつちかた

いしつちかた
かたつちかた

いしつちかた
もあつちかた

和名抄云薫爐此度
利
招ゆまつちかた

上
最本まふ云ねん

の物のよんねん
かたつちかた

俗小つちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた
かたつちかた

まふちかたつちかた

六十九

いーのいーい

先帝の法可小承多敷の由息所の法可

延喜

西土教母

一子中一畑之のいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

林き恵止

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいーいーいーいー

あーいーいー
神名武云揚付國高
上野阿久乃神社云々
けわいあうーあま
雅波とててて

きんこころに
古くもその 夢え
庭ゆふくわあつて
の秋のつとていつか
あつていつかいつか
死つていつかいつか
いつかいつかいつか
いつか

のりの大物さ

公卿補任三源昇卿融

公男延喜十四大納言

中へ

のいひつらいつか

いつか

相違なきむす

般の系の一いつか

一いつかいつか

San-over-...

後撰巻四

六 ^{十五}松 ^{くち} ^{おれ} ^た
なつていつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

あつていつかのいつか ^{更夜知子}

いつかいつかいつか

いつかいつかいつか

いつかいつかいつか

いつかいつかいつか

あつていつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

百十後上

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

いつかいつかいつか
いつかいつかいつか
いつかいつかいつか

山崎
 和名抄云山城国乙訓
 郡山崎^{夜未}云、
 秀八山崎^{佐岐}舟^舟の
 て沱河と云ふ
 うなすつうこれ
 和名抄云後妻云々和名
 宇波 前妻 和名七
 奈利 止豆女 一云
 美奈云々

人のかゝり
 扱ふ人のその扱ふ
 かりつゝその扱ふの
 こゝろをいふ人の扱
 治めらるゝかゝりいふ
 於扱集ふかゝりの
 治むいふ人のかゝり

かんらんまゝ
 あ
 は
 たれ
 越
 及
 ら
 車
 古
 後
 清
 あ
 し

法
 い
 る
 ら
 り
 一
 し
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

同
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら
 ら

女部
 夢美云た女部
 杉葉おあつし
 カの糸云三子
 のほゆ女部

かゝりの
 梅小津の如敷と書
 小まゝ母と村たて

一ある一
 夕教者云く
 一いつてきつ
 一いつてきつ

古今秋下 漢人ふゑ

坂ふ洋の糸云三子のほゆ女部
 杉葉おあつし
 夢美云た女部
 杉葉おあつし
 カの糸云三子のほゆ女部
 のほゆ女部
 古今雑下
 小まゝ母と村たて

かゝりの
 梅小津の如敷と書
 小まゝ母と村たて
 一ある一
 夕教者云く
 一いつてきつ
 一いつてきつ

いまは、此の人の心
あも起し、人の心の
うきもたれ、うかしく

いさこころけ

井取物語の巻、これに

後先二巻と云ふ物語に

なかりと云ふ三巻が

しくもまじやあまけ

みやあらんか

夫木抄巻世三大歌と遠

く舟ふあふあんと

きつるがかりひふま

るけふやまんとと佐

もよひいふ

とみまの

延喜兵部式之相模國

驛馬坂本二十五匹小總

箕輪各十二匹云々

このよみまののり

ナレハハハハハハハハハ

のあり一人のい

あれハハハハハハハハ

二考

ふん

美事ふん云

射目立而跡見乃岳

邊之罪交花総手折

吾者持將去寧楽人

之為云

日系云十七ハハハハ

たハハハハハハハハハ

かハハハハハハハハハ

きハハハハハハハハハ

物換情枯日記云ハハハ

ハハハハハハハハハ

考

ふたのつみあはるさしむちを

このまは買ち中ねのあしはふらハハハハハ

あもあもあハハハハハハハハハハハハハ

たしハハハハハハハハハハハハハハハハハ

のまはあはれハハハハハハハハハハハハハ

あもあもあハハハハハハハハハハハハハ

のまはあはれハハハハハハハハハハハハハ

それハハハハハハハハハハハハハハハハハ

つハハハハハハハハハハハハハハハハハ

たハハハハハハハハハハハハハハハハハ

小總

又ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

箕輪

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

古今哀傷

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

甲斐

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

門出

ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

七十八

江戸
 相模半去程しちりく
 一河一河
 相模半去程しちりく
 一河一河

古今日録云大江玉淵
 女云、拾女之位拾は江
 口邊云、

江戸の國よりのうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき

後撰集二
 白女
 古今目録云大江玉淵
 女云、拾女之位拾は江
 口邊云、

江戸の國よりのうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき
 さくら花のうらやましき

けり
侍りしやたれ
あふちのけり
あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

侍りしやたれ

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あふちのけり

あまのつひに

相違美云

あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

女一宮
紹運録云柏子内親王

配敦慶之、母同天皇

たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま
たまたま

夏野去小牡鹿之角乃
東間毛妹之心乎忘而
念哉

古今目録云冷子朝臣
春澄朝臣善縄女云、
いと不
於菟抄云絲所在采女
町北云、
二人の男の心く
くふふふふふ

はつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに
あまのつひに

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

かゝるに
たし
おれ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

古今恋二
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

あゝ

あゝ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

装束

あゝ

あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ
あゝ

附属

Handwritten notes at the top of the right page, including the name "Mikasa" and other illegible characters.

Main handwritten text on the right page, written in a cursive style. It contains several lines of text, including the name "Mikasa" and other illegible characters.

Handwritten notes at the top of the left page, including the name "Mikasa" and other illegible characters.

Main handwritten text on the left page, written in a cursive style. It contains several lines of text, including the name "Mikasa" and other illegible characters.

ありんく
古今和名よしんか
あつていしんあ
あつていしんあ
あつていしんあ
あつていしんあ
あつていしんあ

たのむをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる

これ
里花田野村
米去るま
徳紀小催の
このり
和名抄云乞見
加多井

たのむをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる
 ちまをいふのたまはるる

